

松浦武四郎生誕二百年記念シンポジウム

# 一畳敷の世界を探究する

主催：国際基督教大学 共催：三重県松阪市 後援：東京都三鷹市



日時：2018年10月6日(土) 13:00 – 16:30

会場：国際基督教大学ディッフエンドルファー記念館東棟講堂

# ごあいさつ

この度、湯浅八郎記念館秋季特別展「松浦武四郎生誕二百年記念 ICUに残る一畳敷」の関連イベントとして、「一畳敷」を学際的に捉えるシンポジウムを開催する運びとなりました。

緑豊かな国際基督教大学（ICU）のはずれに、ひっそりと建つ「一畳敷」。その名のとおり、たった一枚の畳に板縁を廻らせ、床の間と神棚、書棚をしつらえた一室で、およそ130年前に建てられました。この部屋の主は、幕末・明治に活躍した探険家、松浦武四郎（1818～1888）。年若い頃から憑かれたように全国を巡って多くの貴重な記録を残し、また「北海道の名付け親」としても知られています。その見聞の広さから江戸幕府、明治政府に重用されることもありましたが、辞して以降は古物蒐集にいそしみ、東京神田五軒町の自邸で好事の日々を送りました。

一畳敷は武四郎が自らの古希を記念して造った書斎です。建築に際して、かつての旅先で知り合った友人たちに各地の由緒ある社寺や歴史的建造物の古材を請う手紙を書き送り、集まった90もの木片を組み上げて自宅に増築しました。この一室で、武四郎は旅に明け暮れた人生を振り返り、人々との思い出を偲びつつ、晩年を過ごしたといえます。

自らの死後は取り壊すようにという武四郎の遺言に反して、そのままの形で残された一畳敷は、その後松浦家から紀州徳川家へ、さらに財閥の重役や飛行機会社社長と所有者が代わるに伴い、神田から麻布、代々木上原、そして1930年代には現在の三鷹の地へと三度の移築を重ねました。関東大震災や東京大空襲を免れ奇跡的に生き延びた一畳敷の最後の所有者となったのが、戦後この一帯を開学の地とした国際基督教大学でした。

松浦武四郎生誕二百年を記念して開催する特別展およびこのシンポジウムを通して、「ICUに残る一畳敷」を再認識し、一畳敷が内包する世界と歴史的文化的重要性を再発見する機会となれば幸いです。最後に、シンポジウム開催にあたり松阪市をはじめ、関係各位に多大なご協力をいただきましたことを、心より御礼申し上げます。

国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館  
館長 森本 あんり

# プログラム

〔敬称略〕

- 13:00-13:15   ご挨拶       日比谷潤子〈国際基督教大学学長〉  
                  趣旨説明     M. ウィリアム・スティール〈国際基督教大学名誉教授〉
- 13:15-13:30   プロローグ   「武四郎の視界から学ぶ」  
  竹上真人〈三重県松阪市長〉  
  毛利勝彦〈国際基督教大学教養学部長・教授〉
- 13:30-14:30   第1部       基調講演「松浦武四郎の好奇心と独創性の旅」  
  ヘンリー・スミス〈コロンビア大学名誉教授〉
- 14:30-14:45   休憩
- 14:45-15:05   第2部       スライドショー「泰山荘の現状・特別展の紹介」  
  小林京也〈(株) 佐藤秀〉・具嶋恵〈湯浅八郎記念館〉
- 15:10-16:25   第3部       パネル・ディスカッション  
  パネリスト： 山本命〈松阪市松浦武四郎記念館主任学芸員〉  
  三浦泰之〈北海道博物館学芸主幹〉  
  ヘンリー・スミス〈コロンビア大学名誉教授〉  
  M. ウィリアム・スティール〈国際基督教大学名誉教授〉  
  モデレーター： 毛利勝彦〈国際基督教大学教養学部長・教授〉
- 16:25         閉会の辞     森本あんり〈国際基督教大学副学長・湯浅八郎記念館館長〉

〈総合司会：M. ウィリアム・スティール〉

本日は、湯浅八郎記念館は開館時間を17:30まで延長いたします。  
特別展「松浦武四郎生誕二百年記念 ICUに残る一畳敷」も是非ご覧ください。

# 登壇者プロフィール

〔順不同〕

**ヘンリー・スミス Henry D. Smith II** コロンビア大学名誉教授

1941年生まれ。1962年イエール大学卒業、1970年ハーバード大学博士号取得。1985年～87年、カリフォルニア大学東京スタディーセンター長として国際基督教大学で教鞭をとる。その間、一畳敷の研究に着手し、成果を『泰山荘 松浦武四郎の一畳敷の世界』（国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館、1993年）にまとめる。現在、コロンビア大学名誉教授。専門の日本近代史のほか、浮世絵、江戸から東京への都市景観・文化、赤穂浪士など日本の文化に関する多くの研究がある。主な編著書に『広重 名所江戸百景』（岩波書店、1992年）や『浮世絵にみる江戸名所』（岩波書店、1993年）、最近の研究に「武四郎涅槃図」や「大台山頂眺望之図」について述べた“The Stuff of Dreams: Kawanabe Kyōsai’s Nirvana Painting of Matsuura Takeshirō” (*Impressions* 35, 2014)がある。また、アメリカ人学生の日本留学を助ける「京都アメリカ大学コンソーシアム (KCJS)」の事業にも長年貢献している。

**竹上真人** 三重県松阪市長

1962年三重県松阪市生まれ。名古屋工業大学土木工学科卒業後に三重県庁入庁。2003年から2012年まで三重県議会議員を3期（9年7か月）務めたのち、2015年10月に松阪市長初当選。当選後も「誰のため、何のための市役所なのか」を自らに問いかけながら、「子育て」をはじめとする様々な行政課題を解決すべく日夜奔走中。好きな言葉：「鳥の目 虫の目」。好きな食べ物：「焼肉」。

**山本命** 松阪市松浦武四郎記念館主任学芸員

1976年大阪府生まれ。奈良大学文学部文化財学科卒業後、三重大学大学院人文社会学研究科へ進み、2001年に中退。同年4月より松浦武四郎記念館学芸員となる。松浦武四郎の魅力と功績を発信すべく、資料の調査・研究、講演や教育など普及活動に努める。松阪市在住。近著に『松浦武四郎入門』（月兎舎、2018年）。

**三浦泰之** 北海道博物館学芸主幹

1974年静岡県生まれ。京都大学文学部史学科日本史学専攻卒業。主に江戸以降における北海道の歴史や文化について調査・研究を進めている。近年は松浦武四郎の研究にも取り組み、本年6月30日～8月26日に北海道博物館にて開催の特別展「幕末維新を生きた旅の巨人 松浦武四郎 ― 見る、集める、伝える ―」を担当。

**毛利勝彦** 国際基督教大学教養学部長・教授

横浜市立大学文理学部（国際関係課程）卒業。1987年国際大学大学院国際関係学研究科修士課程修了（M.A.）。1994年カールトン大学大学院政治学研究科博士課程修了（Ph.D.）。2004年国際基督教大学教養学部準教授として着任。その後、教養学部副部長、アドミッションズ・センター長を歴任。2017年4月より教養学部長。専門分野は国際関係学、グローバル・ガバナンス論。

**M. ウィリアム・スティール M. William Steele** 国際基督教大学名誉教授

1969年、カリフォルニア大学サンタクルーズ校修了（BA）、76年ハーバード大学大学院博士課程修了（Ph.D.）。専門は日本近現代史、地域史。1978年よりハーバード大学講師、1981年に国際基督教大学に着任（準教授）、1989年より教授、2016年より名誉教授。著書に『もう一つの近代―側面からみた幕末明治』（ペリかん社、1998年）、『鏡のなかの日本と韓国』（共著、ペリかん社、2000年）、『ローカルヒストリーからグローバルヒストリーへ―多文化の歴史学と地域史』（共著、岩田書院、2005年）など。